

質疑・応答

代表取締役社長 西 秀訓 / 取締役常務執行役員経営企画本部長 渡辺 美衡/
執行役員コーポレート・コミュニケーション本部IR部長 長井 進

Q1

国内事業の利益体質が改善されています。これは下半期以降も継続されていくと考えてよろしいでしょうか。

A1

利益改善してきて3年目、体質の改善は定着してきたと考えています。しかし、当上半期については、震災の影響により営業活動がままならず、広告宣伝費や販売促進費が使えなかった影響を若干受けています。

一方で、成長を実現するための設備投資やマーケティング投資のため、単体では経常利益率5%を維持し、その内1%分を成長投資の原資に充てて、連結での経常利益率4%を確保することを目標としています。

Q2

オーストラリアでの海外事業の現状と来期の見通しを教えてください。

A2

オーストラリア子会社 Kagome Australia Pty. Ltd.で行うトマトの栽培・加工・販売事業は、北半球とは正反対で1月から3月までの間に全ての生トマトの生産を完了し、これを年間通じて販売するという事業です。したがって、この期間にどれだけ製造できるかということが、業績に最も大きな影響を与えます。しかし、大規模水害のためにトマトの収穫量が例年の3分の1となり、加工品生産量も当初計画より大幅に減少しました。現在、高台への移動や収穫機械の改良など水害に対して取るべき手段を講じたり、さらに技術開発によって収量を増やす努力も行っております。来期の収穫量・加工品生産量は、平年並みかそれ以上となる見通しです。

Q3

設備投資の、2011年度期内訳、今後の計画や投資の狙いについてお聞かせください。

A3

設備投資はここ数年間抑制傾向でしたが、当期はシステム投資を皮切りに、バリューチェーンのリスク分散、生産体制の整備、海外における拠点設備や事業の拡張に対する投資を予定しています。中期計画や投資目的等の詳細については、来期の事業方針の発表時にご説明いたします。